

<株式会社エフエム東京 第 512 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 6 年 10 月 1 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル 委員長	佐々木 俊尚 委員
松田 紀子 委員	山口 真由 委員
柴崎 友香 委員（リモート）	福里 真一 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（5 名）

黒坂 修	取締役会長
唐島 夏生	代表取締役社長執行役員
内藤 博志	取締役執行役員編成制作局長
宮野 潤一	編成制作局次長 兼 編成部長
山領 由紀	編成制作局制作部長

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（43 分）
「住吉美紀の Blue Ocean」
2024 年 9 月 19 日（木）9：00～11：00 放送

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2024 年 8 月度 聴取率調査結果

ビデオリサーチ 2024 年 8 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果を報告します（調査期間：2024 年 8 月 26 日～9 月 1 日）。今回、6:00～24:00 の週平均におきまして、TOKYO FM はコアターゲット【男女 18～49 歳】区分、また【男女 12～59 歳】、【男女 12～69 歳】の主要 3 区分において、在京首位を獲得することができました。

- ◎【男女 18～49 歳】首位 (※ニッポン放送、J-WAVE と同率首位)
- ◎【男女 12～59 歳】首位 (※ニッポン放送、J-WAVE と同率首位)
- ◎【男女 12～69 歳】首位 (※ニッポン放送、J-WAVE と同率首位)

今回は、当社コアターゲット【男女 18～49 歳】と【男女 12～59 歳】区分は、一昨年 22 年 2 月以来 16 期連続首位、さらに個人全体区分の【男女 12～69 歳】では 22 年 4 月以来 15 期連続首位継続を伸ばすことができました。

各年代区分では上記のほか、【M1F1 (男女 20-34 歳)】、【M2F2 (男女 35-49 歳)】、【男女 20 代】、【男女 30 代】と当社コアターゲット層の主要年代区分でも首位を獲得することができました。一方、前回まで好調に推移していた【男性 50 代】、【男性 60 代】のスコアが今回下降し、個人全体スコアは首位をキープしたものの、スコアは前回同様の水準に留まる結果となりました。

今回の結果を検証し、次回 10 月度調査週（10 月 21 日週）では、改めて番組内容の精査、関心事の取り上げ方、選曲、番宣広報に至るまで総点検のうえで、更に聴取率を向上できるよう対策を講じてまいります。

■ TOKYO FM リスナー感謝祭 in 渋谷音楽祭 2024 について

昨年に続き、番組パーソナリティと TFM 社員・制作スタッフからリスナーの皆様への感謝の気持ちをお伝えするイベントを渋谷を舞台に開催します。昨年は 1 日のみの開催でしたが、今年は 10 月 19 日（土）、20 日（日）の 2 日間にわたり、様々なエンターテインメントコンテンツをお届けします。

メイン会場は LINE CUBE SHIBUYA。19 日は当社でレギュラー番組を持つ人気グループ MAZZEL ら 3 組が出演するライブ、20 日は人気番組「安部礼司」と、平日レギュラーワイド番組のパーソナリティ陣による特別番組の公開生放送を実施します。今回新たな会場として、7 月にオープンした話題の複合施設 Shib

uya Sakura Stage 内のイベントスペースを使用し、「JA 全農 COUNTDOWN JAPAN」の公開生放送や AuDee 番組の公開収録を両日ともに行います。その他、TFM タイムテーブルの表紙撮影体験会や、スタンプラリー等、リスナーが参加できるイベントも用意。各会場では、当社社員が物販や会場案内、スポンサー提供のお土産配布等に携わり、社員全員が運営スタッフのひとりとなって、リスナーに感謝の気持ちを伝えます。

(下の写真は今年の LINE CUBE SHIBUYA での模様)



議題 2 : 番組視聴

【番組名】

「住吉美紀の Blue Ocean」

2024 年 9 月 19 日（木）9 : 00～11 : 00 放送

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、9 月 19 日（木）に放送した「Blue Ocean」のダイジェストです。

この番組のコンセプトは「なんでも話せるラジオの広場」。日常の小さな気持ちの引っかかりから、世界の大きな関心事まで、ラジオならではの温かい距離感や公正さを大切にしながら、市井のリスナーの声を広くシェアしています。リスナーから寄せられた話題＝“話のタネ”をもとに、テーマを展開することが多く、例えば「保育園か幼稚園か、転園について夫婦で意見が割れている」というリスナーからのメッセージをきっかけに、「保育園か、幼稚園か、それが問題だ」というテーマで放送した回は、放送終了後にも熱のこもった長文のメッセージが多く寄せられるなど、多くの反響がありました。

今回お聴きいただくのは、9 月 19 日（木）に放送した「選択的夫婦別姓について語ろう！」というテーマ回です。自民党総裁選の争点のひとつでもある「選択的夫婦別姓」について、リスナーから賛否それぞれの理由や、実際に姓を変えた経験、国際結婚のケースなど様々なメッセージを募集しました。こうすべき！これは間違っている！といった正解・不正解を導き出すことが目的ではなく、ラジオならではの、“誰もが安心して意見や体験をシェアできるコミュニケーションの場を提供する”ことに努め、放送しました。

最近の番組テーマ：

● 「毎日の献立が大変すぎる！」

リスナーからの切実な声をもとに、家事や料理のライフハックをリスナー同士でシェア！

● 「好きな地下鉄 1 本教えて！」

東京メトロ上場を受けて

● 「御社の朝礼教えて」

米 Amazon がリモートで働き方にゆりみが出たとして週 5 出社を原則としたニュースを受け、リモートの対極、昔ながらの朝礼にフォーカス。『月刊朝礼』編集長をゲストに迎えて

● 「戦争について子どもと話していますか？」

終戦記念日に

● 「わたしとお墓」

分骨？散骨？墓じまい？お墓にまつわるリアルな声の特集

● 「お米の品薄、あなたは困った派？困らなかった派？」

品薄が落ち着いたタイミングで、実際のところどうだったのか？リスナーの声をシェア

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○この番組は日頃から拝聴しているが、常々思うのがお悩み相談室だったり、リスナーから寄せられるメッセージ、本当にみなさん民度が高く、頭が良い。とても性格の良いリスナーが集っている印象がある。そういう意味でとても安心して毎回聴ける、という前提がある。その上で、今回のテーマを聴いていて感じたのが、住吉氏のテンションの高さが、こちらの体調がいいときは全然気にならないのに、体調が悪かったり、何かイライラすることがあったときに、とても癪に障ることがある。どうしてこんなに癪に障るんだろう？と自分なりに掘り下げて考えてみると、デリカシーがないときがある。今回の放送でも若干それを感じたのが正直なところ。心理的安全や、正解不正解を求めるのではなく、いろいろな角度から意見を募る場としてはとても成功していると思うが、今回の夫婦別姓のような話題は、割とデリカシーが必要かなと思う。この話題が各メディアで取りあげられる中では、主張揉めというか、難しい方に転びがちなので、パーソナリティの反応や笑い方がこれでいいのかな？と聴いていて不安になった。ワーワー騒がしく元気な印象がこのテーマに合わないと思う。この件に対してシリアスな問題を抱えている方からするとこんな進んでいいの？と思うのではただそう感じてしまうのは、この件に関してシリアスに考えている私の視点という問題もあって、戸籍に関わる仕事をしている方、国際結婚の元に生まれた方、そもそも別姓でしたよという方から寄せられた話がカジュアルに聴けたのは、非常に参考になるし、勉強になった。

○いろいろ難しいところがある問題なので、そこを深く掘り下げるのではなく、メッセージを読んでいただけというのはラジオらしさもあり、とてもいい形式だと思った。パートナーの姓変更手続きに全部同行して、こんなに面倒くさいのかと気づいて別姓に賛成だというお話、自分自身は結婚したら姓を変えたいけど、制度としての別姓には賛成という意見。すごくリアルな意見が聴けたのは、すごく良かった。朝はいろいろな他のことをしながら聴いている中で、いろいろな角度からのメッセージがあって、その後、他の身近な人とも話すきっかけになるようなメッセージの出し方だったのかなと思った。いろいろな人の経験談が聴けたことは良かったが、経験談は気軽な意見が圧倒的に多く、その紹介に終始していたので、番組の帰結としてこれでいいのかな？とは少し思った。

○今、広告業界は、何でもかんでも調査で決めるというトレンドがある。いろいろな人を集めて、世の中の人はどういうことを考えているかとか、この商品をどう思うかとか、広告表現もあっちとこっち、どっちがいいかなど、全部調査で決めているという現状がある。そして、調査というと、どうしても答える人が構えて賢いことを答えようとか、何か良いことを言おうとか、批判的なことを言った方が賢いんじゃないかとか、そういう感じになりがちだったりする。また、SNS の声が国民の声であるみたいな感じで、SNS でこういうことが言われているので、こういうことに気をつけなきゃ、ということにすごく敏感になっている。要は世の中の人々の声を参考にしながら決めないと、広告効果が出ないというような調査漬け状態であるように思うが、実際本当に世の中の人々がそう思っているかという懸念はずっとある。

番組の企画意図にも記載があるように、誰もが安心して意見や体験をシェアできることが狙いということで、みんなが本当に思っていることを軽やかに、批判されたり問い返されたりすることもない安心感の中で語る場を作れているのはすごく良い。みんなが嘘をつく必要のない場だと思うので、広告を作る人間が日々聴いたりするとすごく参考になると思った。自民党総裁選に出た人たちも、国民の声に耳を傾けるという時に、軽やかにこの番組を聴けばいいのかなと思ったり。しいて言うなら、せつかく人々の声を聴く番組の割には紹介されている声やや少なめだなとは思った。2 時間もあるので、もっとたくさん紹介すればいいのにも思った。ゲストも不要かなと。他の委員の方が意見されていたパーソナリティのトーンについては、リアクションというよりは、声が甲高く感じた。もうちょっと低いトーンで話してもいいのかなという気はした。

○私は住吉氏の声がすごく好き。深刻なトーンで話すパーソナリティよりもずっと聴きやすい。朝の時間に重いテーマを深刻なトーンで話されるより、明るくパンパンやるのは逆に気持ちがいい。変に重く受け止められるより、このくらいの方が意見しやすい側面があると思う。私はゲストパートも面白く拝聴した。住吉氏は、この世代の男性の方へのインタビューがすごく上手い。距離感が良いというか、インタビューする相手に好感を抱かせる雰囲気があり、そこに嫌味が感じられず、とても清潔感がある。

○姓という言葉は民法には出てこない。姓というのは血縁集団の保障で、東アジアにおけるいわゆる儒教の、例えば韓国とかの姓。だから妻は同じ名字（姓）になることはなく、それは血縁が違うので同等というよりは、むしろ儒教の女性蔑視の考え方に近く、結婚しても同じ名字（姓）に入れないというもの。一方、日本では夫婦別氏。氏というのが家の呼称なので、そのあたりはメモで抑えておいた方がいいと思う。また、番組内で事実婚の権利が限られるというコメントがあったが、どちらかという日本は内縁が昔から保護されてきた。財産分与でも事実婚には同等の権利があるので、そのあたりを抑えてから話すのがいいのかなと思いつながりながら聴いた。

○番組内で苗字のことを家族のグループ名と表現しているメッセージを紹介しているのは非常にユニークだと思った。家の呼称というか、家族という括りを区別する効果が同氏というのは最高裁の大法廷判決も理由の 1 つに挙げている。SNS だと、極端な意見が多いので普通の人々がどう感じているかを聴く機会が少ないので、そういう場を確保しましょうというコンセプトであれば、それはとても成功していると思う。

○住吉氏は以前にもこの審議会で取りあげた時に、トーンを批判されたと思う。しかし、そうやって批判が出る人が、なぜこれだけ長い期間番組を担当して人気を博しているのはなぜか、ということを考えてもいいのでは。音声って年齢によって受け止め方が違うし、モスキート音などは子どもだけに甲高く聞こえて、大人には聞こえない。住吉氏の声が嫌だと思うのは割りと上の年齢に多いのではと思う。もう少しなぜ住吉氏の声が多くの人に受けているか考えた方がいいかもしれない。

○この住吉氏のノリで選択的夫婦別姓制度を取りあげるのはとてもラジオ的でいいと思う。いわゆる、昔からラジオが拾ってきた地に足のついた草の根の声というもの。このようなラジオリスナーの声の取り上げ方は段々日常から消えてしまっていて、ネットのうるさい声ばかりが聞こえるようになったと最近つくづく感じる。ネット世論の研究者の話によると、ネット世論と実際の世論は全然違うことが分かる。強い声がワッと沸き起こって、みんながそう思っていると思っ込んでいて、実際はネットユーザーの0. 数%だったりする。個人的には選択的夫婦別姓制度はぜひ実現してほしいと思うけれど、数年前、ある広告で、アニメの女性キャラクターが未来の夫に手紙を書くという形式のものがあつた。その中で、その女性キャラクターが夫の苗字に変わっていたため、別姓を選ばないこの人物はダメだと過激なフェミニストから批判が殺到した。「選択的」夫婦別姓なのだから、別に別姓にしようが同姓にしようが個人の自由のはず。現状では別姓にしたいという多様性が確保されていないから、選択的夫婦別姓を取り入れてどちらの自由も確保しようという当たり前の話なのに、夫婦同姓を選ぶ奴は保守的でダメだ、という様な価値観を押しつけるみたいな意見が出てきてしまう。結果的に誰も口を出せなくなって、ますます中道良識派のマジョリティの声が小さくなっていて、極左と極右の大きな声だけがまん延するのがインターネットの現状。その中でこの番組はリスナーの地に足のついた声がたくさん取り上げられて、実に健全で良い世界。これはラジオの良さ。また、テレビと比べてラジオはリスナーと双方向で、流れ込んできた声がちゃんと紹介されている。ラジオのような場所で難しい問題が会話されているというのは、とても良いことなんじゃないかと。難しい問題だから静かな声で話す必要はなく、もっと気軽にこういうテーマを取り上げられるべきだと思う。

○このテーマの回になぜ今回のゲストが入つたのか謎だつた。

○パーソナリティが賛否を明言せずに話を聴いていたのは良かったと思う。

■大変参考になる意見をありがとうございます。日本の苗字帯刀など、それなりに調べたつもりだつたが、事実婚についてなど、もっと詳細に調べて資料を準備すべきだつたと反省している。ネットであれば袋叩きに遭いそうなテーマを取り上げるっていうのは、実は怖かつたりもするが、ラジオならではの距離感だつたり、公正さ・安心感というのを提示することに意味があるという気持ちもあり、今後もときどきこのようなテーマにチャレンジしていきたい。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

10月26日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>